水百花譜

第十八輯

大正
11. 5. 20
内交

始

やまぶだう（山葡萄）

學名　Vitis coignetiae, Pull.

異名　かねぶ　くろぶだう

漢名　紫葛

科名　葡萄科(Vitaceae)

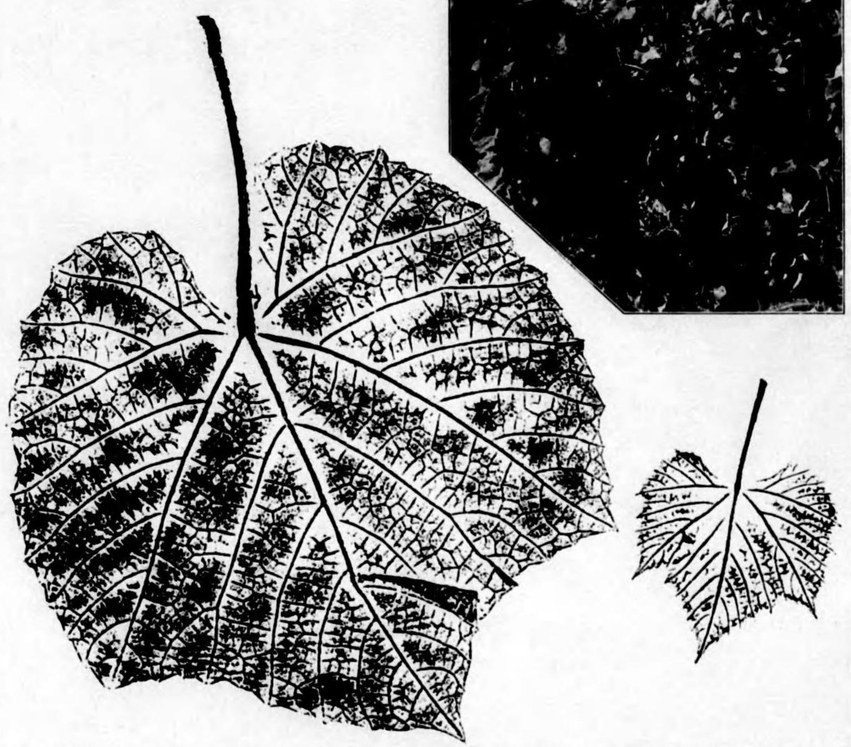
本州中部以北の山野に自生する蔓性草木にして、葉は大形心臓形又は、圓形を呈し掌狀脈を有す、邊緣は三乃至五の淺裂あり、各裂片の邊緣は更に不齊の鋸歯を具ふ、表面は平滑にして、裏面は赭色の軟毛を密生す。巻鬚は葉と互生して生じ他物に經絡巻緣す、夏季に葉と對生して花穗を生じ、花は小にして圓錐花序に排列し、雌雄異株なり。萼は盃形をなし、花瓣五枚ありて、雄蕊五本、雌蕊は一本を存す、果實は紫果にして球形なり、初は綠色なるも後成熟すれば黑色に變じ内に二三の種子を藏す。

果實は生食用として、子供等取り食す、又酒を造ることを得、樹皮は强き故に漁船用の繩となす、蔓は蒟蒻の結束用とする外蛇籠又は雪履等を作るに用ひらる。

本圖　大正九年十月十七日越後赤倉岳に於て寫生（自然大）

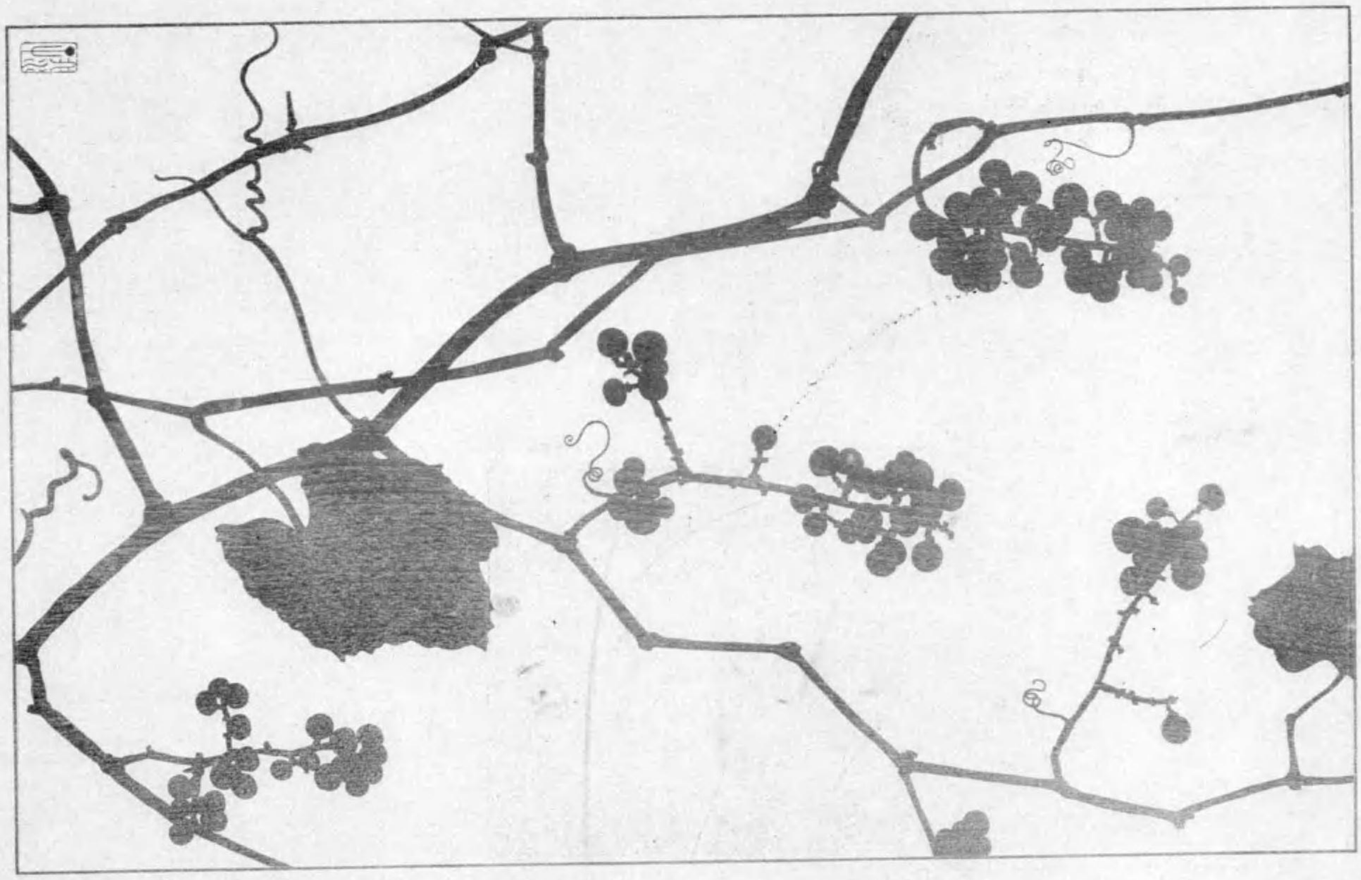
附圖　印葉二種（自然大）

寫眞　大正九年十月越後赤倉にて著者撮影



非水百花譜　第十八輯目次

やまぶとう（山葡萄）
みづあふい（水葵）
なんてんはぎ（南天萩）
きだからこう（男雲雲）



みづあふひ(水葵)

學　名　Monocharia Korsakowii, Regel, et Max.

漢　名　雨久花、淮花

科　名　雨久花科(Pontederiaceae)

本州中部以北北海道に渉り、水田湿地に自生する一年生草本にして、根部は匍匐せる地下茎よりなり、茎は高一尺餘に達す、初生葉は楕円形を呈し、漸次帝形の葉を生ず帝形葉は圓大にして圓形又は、心臓形にして先端は鋭く、全縁にて多肉多汁なり、色は鮮綠色を呈し、夏秋の頃長柄を抽出してその頂端に花を着生す。

花は散開よりなり、下唇のものよりも順次開花し、花冠六枚ありて廣開形にして、淡紫色又は白色を呈す、(白色のものは極めて稀なり) 雄蕊は六本ありて、その内四本は大にして屈曲せる鈎狀枝を着け、五本の雄蕊は黄色を呈して大なり、唯の一本の葯は淡紫色にして、子房は楕狀をなし三室よりなり、花柱は三度をなし柱頭三枝除なり、花瓣基は花冠開折して葉柄に附びて結實す。

果實は圓錐狀卵形を呈す、蒴殼力甚だ強くして本田の除草分を多入こと甚しく、更除するもその根絶甚だ困難なり。

本　圖　大正十年九月十九日埼玉片山津に於て写生(自然大)

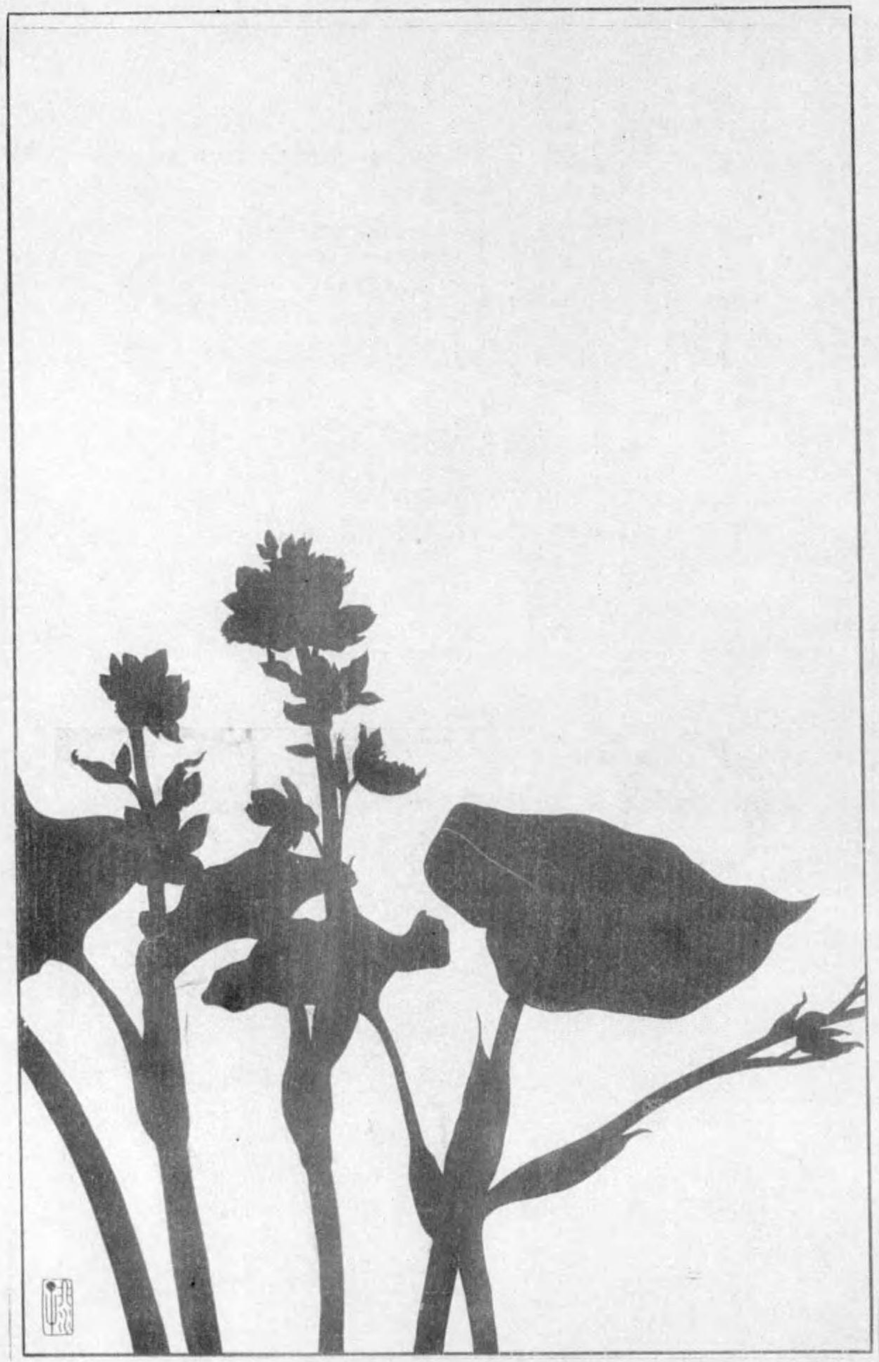
説明圖　(一)花の正面、(二)花の側面、(三)蕊 (自然大)

寫　眞　大正十年九月埼玉片山津にて実寸撮影。

一

二

三



なんてんはぎ（南天萩）

學　名　Vicia unijugo. Al. Br.

異　名　ふたばはぎ。たにわたし。

漢　名　歪　頭　菜

學　名　莧科（Leguminosae）

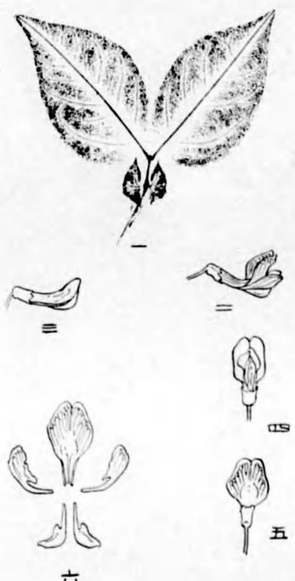
山野に自生する宿根草本にして、莖は高一、二尺位にして軟弱なる多數の枝を分ちて叢生す。托葉は、箭鏃形にして二三尖あり、長二分、幅一分位に過ぎず、三尖中の中央部のものは後方心に向ひ、南天燭に類似す、葉柄は長さ一分位にして頂端に一對の小葉を着く、小葉は廣披針形にして長さ一寸五分、幅六分内外にして表面は、深綠色にして、裏面は灰綠色を呈す、全緣なれども極めて微細なる刺狀突起を密生し、夏秋の頃となれば葉腋及梢頂に短き總狀花序の花を着生す。

花は十數花連綴し、莖の花よりも稍々大にして、紅紫色の蝶形花にして長さ四分餘なり、萼筒は長さ二分餘の圓筒にして、針形をなし、五淺裂あり、裂片は殆んど同大なるも下方の三者は稍々大なり、旗瓣は倒卵形にして、頂部は微凹形なり、翼瓣は針形にして同長の爪と舷を有し、その中間に龍狀突起ありて後方に向ふ、この處にて龍骨瓣と相接着す、龍骨瓣は兩者より稍々短く、上方に彎曲す、雄蕊五に合着し、子房は短柄を有し、數個の胚珠を藏し、花柱は細長にして、上方に彎曲し、その上部に細毛を密生す、柱頭は柱狀を呈す、花謝後果實は平滑なる莢にして、短柄一室の長さ一寸幅一分餘の革質よりなり、成熟すれば二片に裂開して各片は多少卷旋す、種子は球形にして黑褐色を呈す。

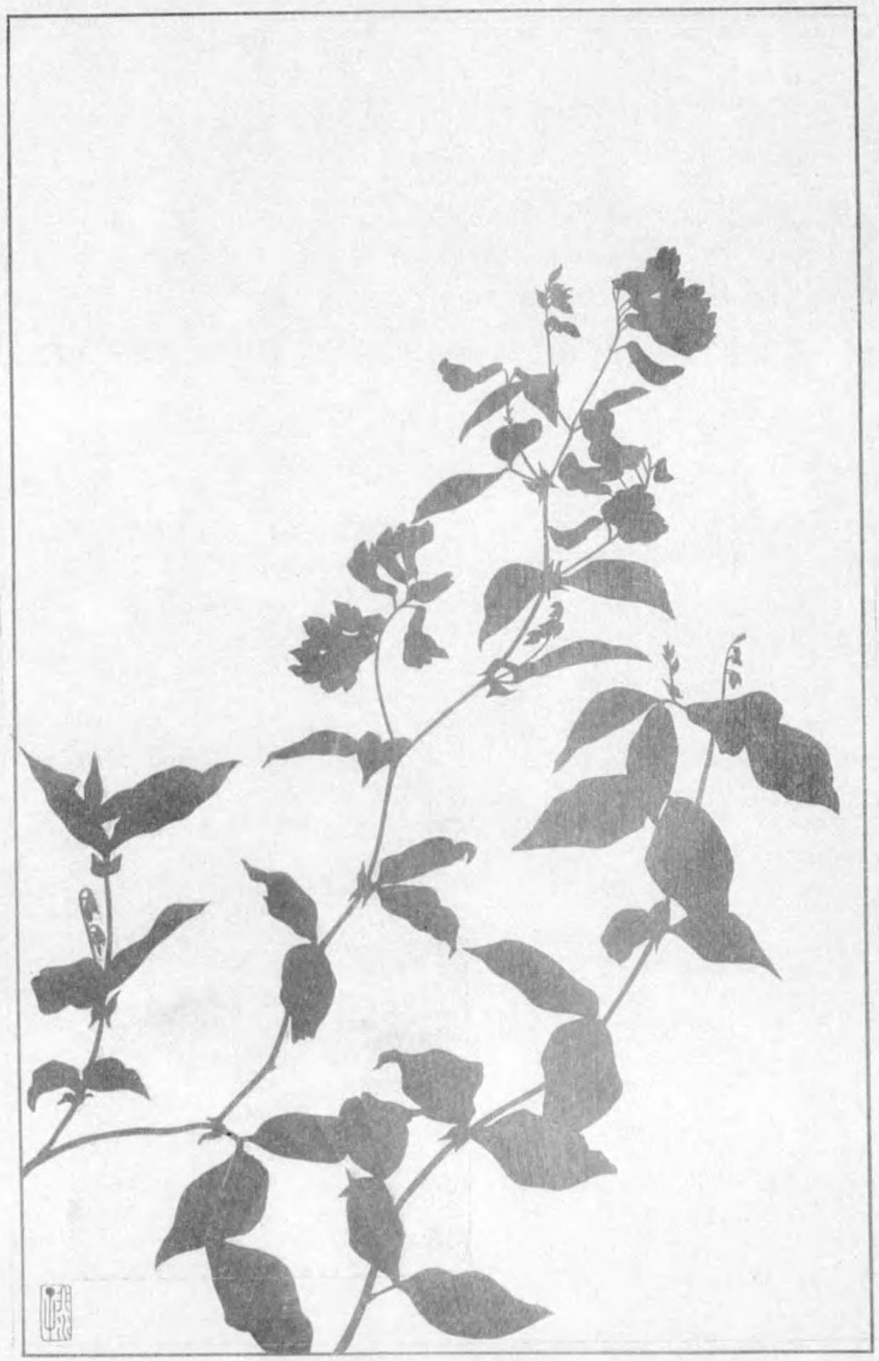
本圖　大正八年十月二日安房太海村に於て寫生（自然大）

附圖　（一）印葉、（二）花の側面、（三）雷、（四）花の正面、（五）花の背面、（六）花の分解圖、（自然大）

寫眞　大正八年十月安房太海村にて著者撮影



本書（第一部）
北海道化學研究會編纂
（第二部）
大倉宇兵衛
（第三部）
鈴木巳之吉
（第四部）
杉浦清太郎
東京市日本橋區通四丁目
發行



をたからこう（男寶香）

學名 Ligularia sibirica, Cass.

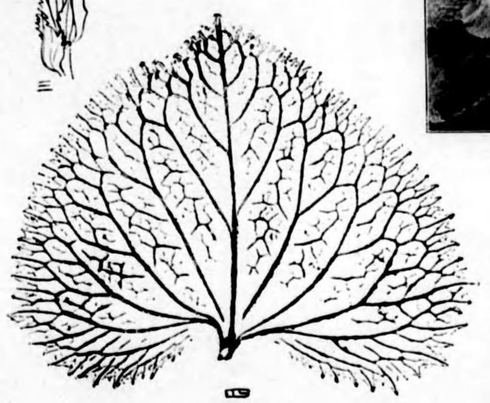
異名 ナシ

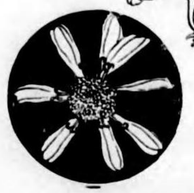
漢名 ナシ

科名 菊科(Compositae)

山野に自生する多年草本にして、葉は高二、三尺に達し、葉は枯冬の如く、心臓形を呈し、表裏共に平滑にして、表面は濃緑色にして、裏面淡緑色なり。緑邊に細き鋸歯を着け、根葉及下葉は腎臓形又は、心臓形にして先端稍々鋭く、大形のものにありては、長さ一尺に達するものあり、葉柄は長くしてその上部は葉質の翅翼を存す、中葉にては、先端鋭形又は圓形にして、葉柄は稍々短く、基部は箱狀となりて莖を抱擁す、上葉は其だ小にして、楕圓形又は、心臓形にして葉端鋭くして、葉身短く箱部發達して瓶形を呈す。

夏季葉間より長三、四尺の花莖を抽出し、其の上部に小葉を二、三着け、その上部に短花柄の互生せる頭狀花を着生す、頭狀花は多數集合して、長さ一尺餘の總狀花序をなし、その色は淡黄色にして雲呑の花に似て小なり、苞は下部のものは四、五個にして幅廣く、長楕圓形なるも、上部のものは投針形なり、頭狀花の周緑にある舌狀花は黄色にして、六、七個を存しその先端は二歯をなし、中部のものは黄色にして數多し、双方共に赤褐色の冠毛を有し、果實は褐色の痩果にして黑き線ありり。





本圖 大正十年九月十日下野那須温泉地に於て寫生（自然大）

附圖 (一)上面より見たる頭狀花、(二)側面より見たる頭狀花、(四)印葉、(四は縮少圖他は自然大）

寫眞 大正十年九月下野那須温泉地に於て著者撮影

こくちなし（水梔子）

學　名　Gardenia florida, L. var. radicans, Matsum.

異　名　からくちなし。千葉くちなし。

漢　名　水梔子。玉樓香。

科　名　茜草科（Rubiaceae）

常綠性木本にして、枝葉共に繁茂し、活着性甚だ强きにより挿木によりて繁殖せらる、葉は短かき葉柄を有し、對生にして小披針形全緣なり、色は暗綠色を呈し、光澤に富む、初夏の頃に到れば枝頂の葉腋より小白花を開く、花は通常六瓣なるも、又千瓣のものありて香氣非常に高く、子房は一室よりなり、花柱合一にして絲狀をなす、萼は六裂して各裂片は長披針形を呈し、花は脫落前黃褐色に變じて後結果す。

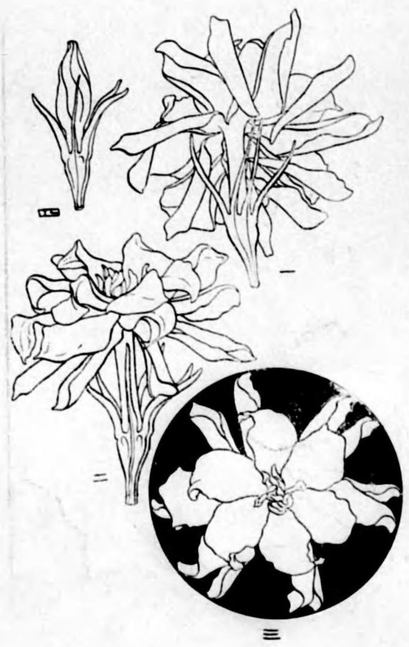
果實は黃赤色にして、長楕圓形を呈し、兩端尖りて、六乃至七の縱溝を存し、頂端は永存性の細長なる萼片を殘存す、外皮は薄くして、內部は紅肉ありて、その中に白色小粒の種子を藏す。

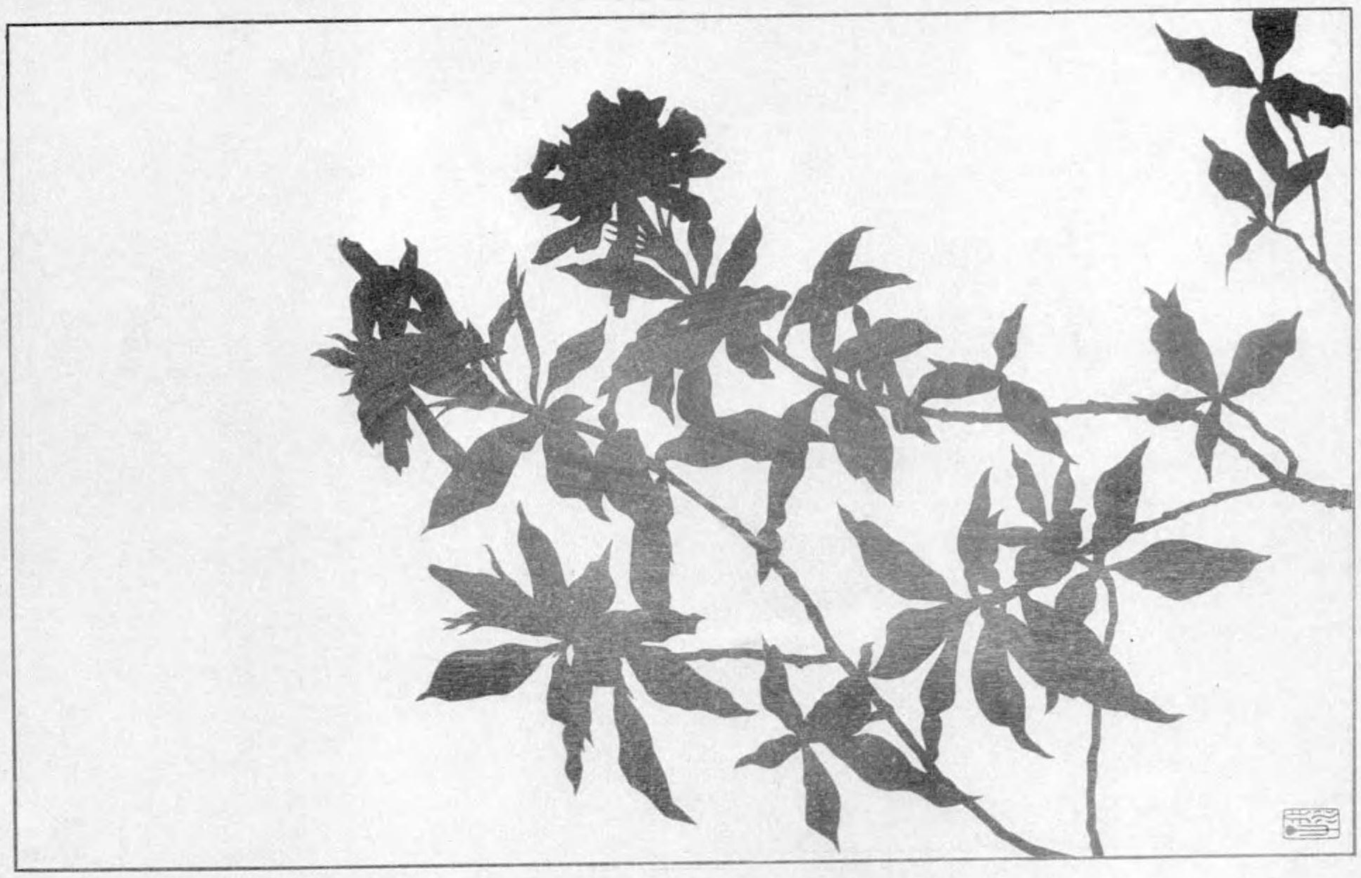
果實は食用とせられ、又染料等に用ひらる。

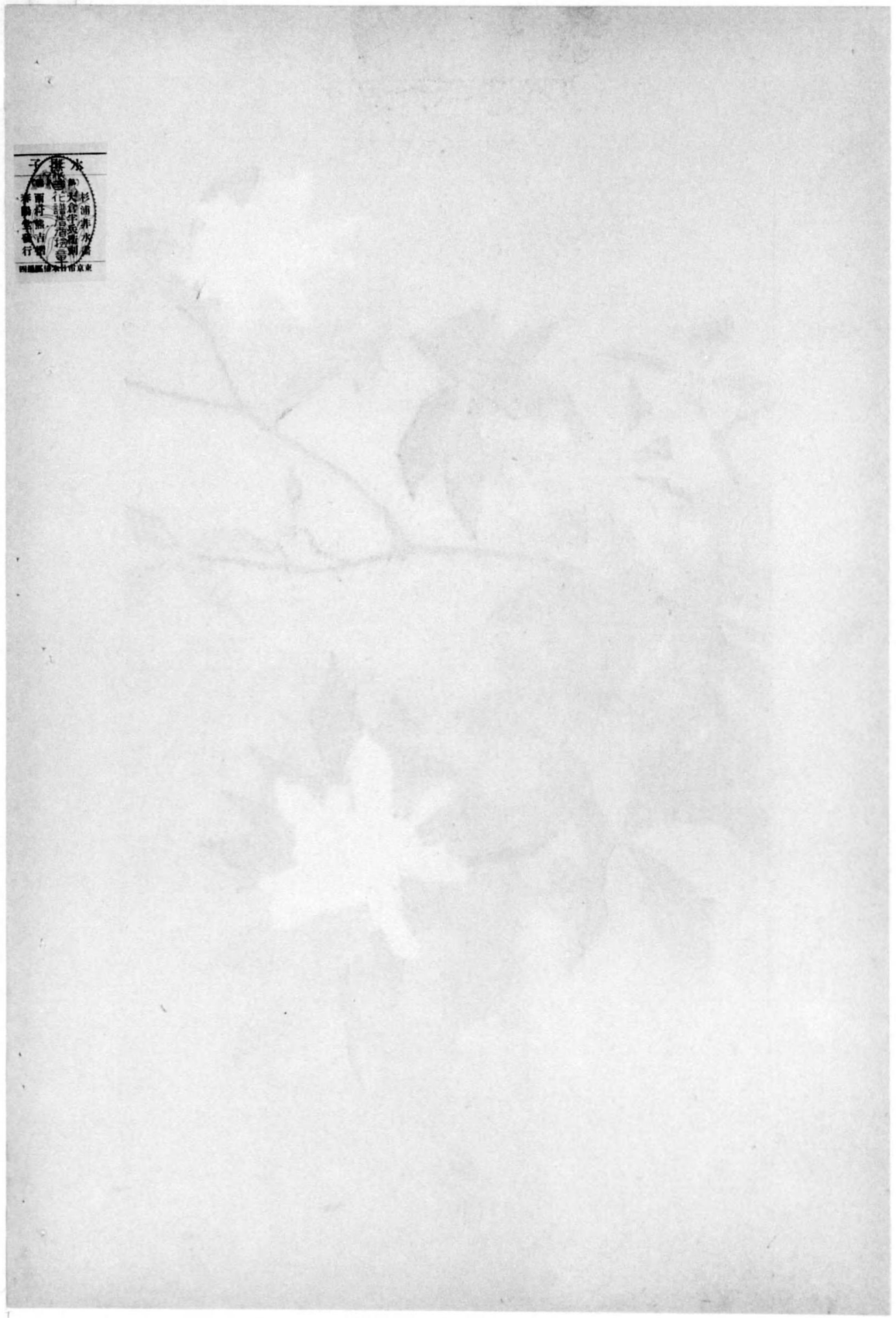
本　圖　大正八年七月八日東京に於て寫生（自然大）

附　圖　（一）花の背面、（二）花の側面、（三）花の正面、（四）蕾（自然大）

寫　眞　大正八年七月東京にて著者撮影







東京市外本郷区駒込
発行者　杉浦井内
印刷者　矢倉牛成
東京市外本郷区駒込
花詰町坂下
印刷所　東京印刷株式会社
東京市外本郷区駒込
発行所　株式会社
東京市外本郷区駒込
花詰町坂下
電話　本郷四〇一

終